

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和5年度実施報告（概要）

市町名: 交野市

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(イ. 特別活動における指導)

2. 実践校について

実践校名	(かたのしりつだいさんちゅうがっこう) 交野市立第三中学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
514人	(学年) 第2学年	(生徒数) 161人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

第2学年の生徒を実践研究の対象とし、特別活動を軸として、よりよい学級・学校の実現に向けてさまざまな課題を主体的に解決しようとする「自治的な力」や、社会の形成に「主体的に参画しようとする力」を高める取組みを行う。

校内では、学級や学校の課題を自分事として捉え、学校の行事や活動の実施に向けて生徒が主体的・対話的に考え学び合う学習活動に取り組む。また、地域の課題についても自分事として捉え、生徒たちが住んでいる地域の課題解決、活性化をめざし、地域の企業と連携・協働して、生徒のアイデアを基にした商品開発・販売促進活動等、体験的な学習に取り組む。

(2) 1年目(令和5年度)の実践内容

特別活動を軸として、「自治的な力」や「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるため、生徒総会や体育祭に向けての話し合いを中心とした生徒会活動を通じた取組み、職場体験やクリーンアップ作戦をはじめとした勤労生産・奉仕的行事を通じた取組みを実践の柱とした。特別活動において、話し合い等を通して合意形成を図る際に大切な「他者と協働して取り組むことの大切さを理解する力」や「意見の違いや相手の立場を理解する力」を培い、教科等の学習においてそれらの力を生かす。さらには、教科等の学習において学んだことや育んだ力を特別活動において生かすことができるよう、相互に関連させ、つけたい

力を高めるため、学習活動の工夫を行った。

4. 実践校における実施体制

実践研究が対象学年だけのものにならないように、下記のような研究推進委員会を立ち上げ、教職員が一体となった体制づくりのもと、学校全体の取組みとなるように努めた。

また、交野市生徒会交流会において、市内に向けて本事業の取組みを発信、普及する機会を設けたことやゲストティーチャーを招聘したりする等、対外的な調整についても組織的に行える協力体制のもと、実践研究を進めた。

<研究推進委員会>

構成メンバー：校長・教頭・首席・社会参画力育成指導実践研究事業担当者・社会科教職員・生徒会指導部1名・生徒指導部1名・研究部1名・事務

- ・学習プログラムやカリキュラムの内容検討
- ・地域の関係諸機関や企業等の外部機関との連携
- ・取組みの成果の検証と課題の考察

<外部人材・機関の参画>

- ・ルラシオンデュクールアミエル
- ・株式会社 Learn More

5. 各研究テーマについて、1年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践 (イ. 特別活動における指導)

<児童生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促すための指導上の工夫>

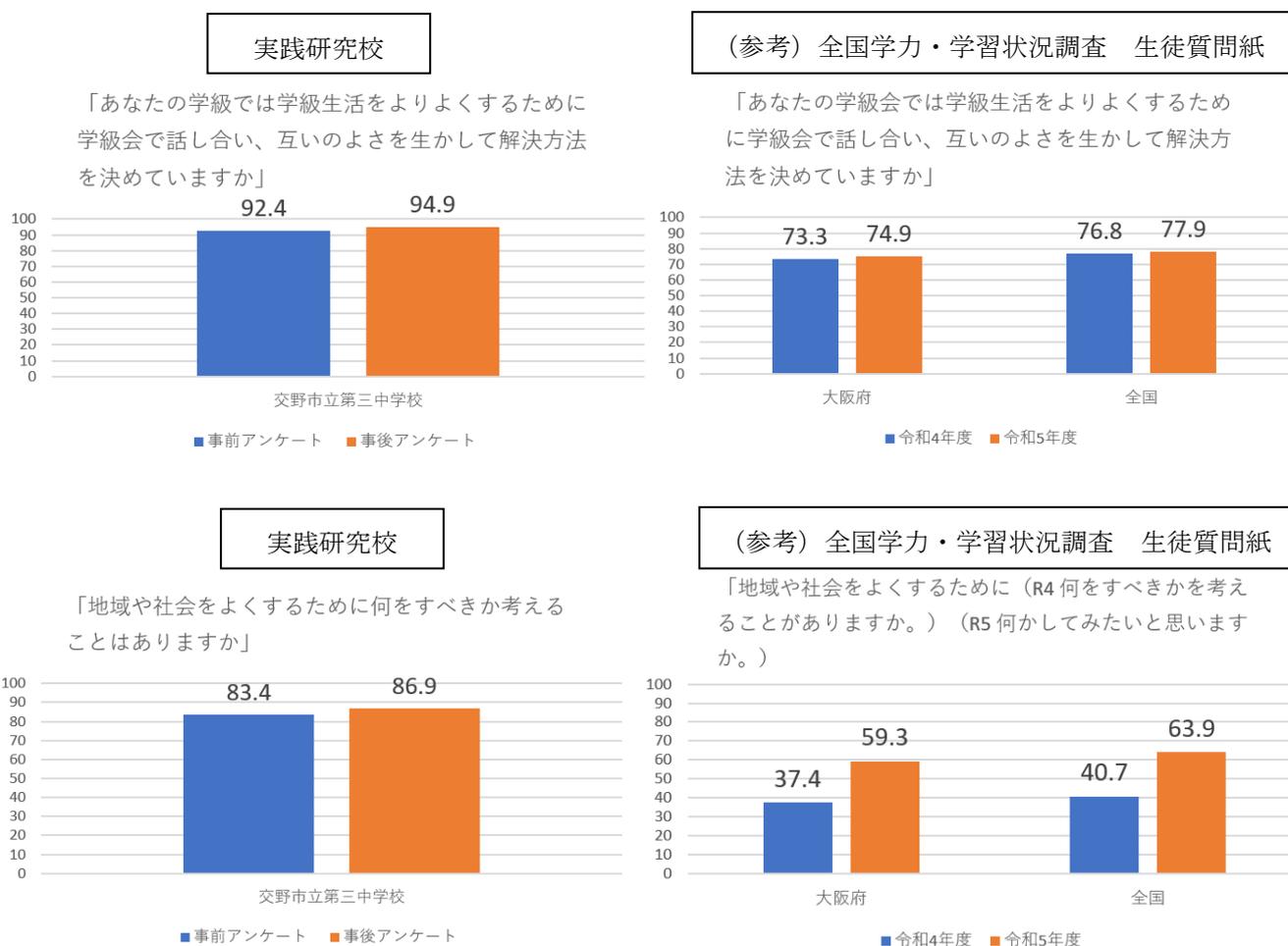
- ・「こども基本法」の基本理念に基づき、生徒の学校生活に関連する生徒会活動や学校行事等を通じた学習活動において、自己に関係する事項に関して意見を表明する機会や社会的活動に参画する機会を設け、生徒の主体性を引き出せるような学習活動の工夫をした。
- ・「自主的に学校を創造する自治的な集団を育てる」という観点から、体育祭等の学校行事に向けて、学級活動や生徒会活動において生徒が中心となって話し合いをする機会を設けて、現状を分析した上で「原案作成→討議→決定→実行→総括」という筋道を大切にしながら、生徒の意見が反映された行事等に取り組むことができるよう、学習活動を工夫した。
- ・研究部が中心となり、日々の学習活動の中で「相手を想って伝える力・共感的に受け止める力」を育む「学び合い」の実践に取り組み、合意形成の手順や活動の方法を示すことにより、課題解決に向けた話し合いにおいて、多様な意見を生かして合意形成を図ることや他者と協働して取り組むことの大切さを生徒が実感することができるように工夫をした。

<全ての教職員が趣旨を理解し協力して関わることのできる、学校全体としての取組みと
するための校内体制構築に関する工夫>

- ・ 実践研究が対象学年だけのものとならないように、研究推進委員会を立ち上げ、校務分掌を有機的に関連させ、学校全体の取組みとなるように工夫をした。
- ・ 本事業の計画や進捗状況について、職員会議で適宜提案や報告をし、本校所属の全ての教職員が本事業を通してどのような力を育成するのか、そのためにどのような取組みを進めるのかを共通理解し、学校全体で取組みを進めることができるように工夫をした。

<成果と課題>

本事業の成果指標としている生徒アンケートの質問項目の結果から、下記のような成果を得ることができた。



上記の資料のように、「あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」という質問項目において、肯定的回答の割合が事前の結果から高めることができ、94.9%となった。また、「地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることはありますか」という質問項目においては、肯定的回答の割合を大きく高めることができ、86.9%となった。このような結果から、本事業における取組みを通して、「自治的な力」や「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めることができたと考えられる。

また、学級活動や生徒会活動を通した「自治的な力」を高めるための取組みや勤労生産・奉仕的行事を通した「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるための取組みについて、教職員からは、「自分たちの学校を自分たちでよりよくしていこうという生徒の意識を高めることができた。」「自分達の意見で行事の内容をよりよく変更することができることを学び、主権者としての意識が高まったと思う。」という反応があり、教職員も取組みによる成果を実感した。

事業1年目の課題としては、自治的な力を高めるための実践において、合意形成の際、否定的な意見を建設的に役立てることができなかつたこと、また、つけたい力の育成につながる特別活動の取組みと他の教科等の学習の関連について整理しきれなかつたことが挙げられる。

次年度は、今年度の研究成果を活かし、課題解決に向けた取組みを進める。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 5 年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

市町村名： 交野市

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（イ. 特別活動における指導）

2. 実践校名

交野市立第三中学校

3. 実践校における 1 年目（令和 5 年度）の実践内容

学習活動①＜自治的な力を高めるための実践＞「生徒総会」「体育祭」

生徒会活動の「生徒総会」や学校行事の「体育祭」において、自己に関係する事項に関して意見を表明する機会や学校という社会へ参画する機会を設けるように学習活動の工夫をした。なお、特別活動において、子ども主体となる取組みの工夫をすることを年度初めから教職員間で共有した。

本校における生徒会活動は、現状を分析した上で「原案作成→討議→決定→実行→総括」という筋道を大切にしながら実践に取り組むことができるように学習活動を工夫している。そのような過程を踏むことにより、生徒の自治的な力や自治に対する意識を高めることができる。そして実社会に出た時に、自分たちの行動で、よりよい社会を築くことができるという実感をもたせられると考えた。

「生徒総会」の資料は、前年度の総括や全校行事、専門委員会についての方針等を示すが、生徒会だけで考えて一方的に示すのではなく、各学級において意見や修正案を考える機会を設定し、それらを反映させた資料を示し、生徒が改善点を自分事として考えより主体的に学校という社会への参画ができるように工夫した。

「自治的な力」を育むための生徒会活動や学校行事となるために、取組み後には、振り返りを常に行い、生徒自らによる PDCA のサイクルを確立させるように工夫をした。

学級活動では、話し合いをする際、以下のような工夫を行い、話し合い活動の充実を図った。

- ①「相手を想って伝える力・共感的に受け止める力」を育む「学び合い」の実践として日々の学習で取り組んでいる「聞き方名人・あいづち名人」を活用する。
- ②合意形成の観点（①意見を出し合う②くれば合う③まとめる）や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導する。

③話し合いは、生徒が司会を務め議事・運営を進めるが、話し合いの内容が目標から離れた時、提案理由が明確でない時や話し合い活動が混雑した時等には、その場で指導・助言をする。



学級での話し合い活動の様子



生徒総会で質問に返答する
執行部の様子



体育祭修正案についての
執行部よりの返答の様子



聞き方名人・あいづち名人
についての資料

2023年度 生徒会執行部方針案

1 2022年度総括

(1) 全体行事

☆ 体育祭
はじめに、ブロックアビールについてです。練習では、真剣に取り組んでいる生徒がほとんどでしたが、話を聞いていなかったり、喋っている生徒もいたため、より良い活動にしたいためにも次年度の体育祭では、気を付けましょう。本番では、真剣に取り組んでいたのが良かったです。次に鑑賞態度についてです。鑑賞中、自分の席についていない生徒やマスクを着用していない生徒が見られ、少し残念に思いました。ルールは必ず守り、守っていない人がいたら声を掛け合うようにしましょう。競技については、ブロックやクラスで協力し、最後までやり切っていたのがよかったです。展示物のカラー度は、遠くからでも見やすかったです。

新型コロナウイルス対策を徹底して行いながら無事行うことができました。全員が楽しみ、協力できる体育祭を目指して、次年度は良かった点を活かして、改善しなければなりません。これは必ず改善して行えるようにします。

☆ 合唱コンクール
昨年度はコロナ禍になってから中止になっていた合唱コンクールを3年ぶりに実施することができました。久しぶりの合唱コンクールの開催という点もあり、準備や運営面において少し不安な部分もありましたが、みんなで協力をして、素晴らしい合唱コンクールを実施することができました。他学年の発表を見ることにより、みんなの輝きや声めようという点から昨年度は全学年が参加しての合唱コンクールを実施しました。今年度もみんなで協力して、素晴らしい合唱コンクールをつくっていきましょう。

☆ 文化部 week
吹奏楽部は3中フェスタにて演奏、科学部は3中フェスタの日に動画を放送、アニメ部は3中フェスタから1週間作品展示を行いました。日頃の頑張りや保護者の方や、生徒、先生にまでいただけた良い機会になったと思います。来年度も今年度のように3中フェスタと同じ時期に展示や演奏を行いたいと思います。

☆ クリーンアップ作戦
昨年度は、美化委員の活動としてクリーンアップ作戦を実施しました。具体的には校舎周辺と校内の清掃活動を行いました。校舎周辺については正門から右回り、左回りの2組に分かれ、ゴミ拾いを行いました。校内はトイレと手洗い場の床清掃を行いました。クリーンアップ作戦については次年度以降も美化委員の活動として継続していきたいと考えます。

生徒会執行部方針案

生徒会執行部方針案の討議について

2023年4月5日生徒会指導部

各クラスの意見の集約の仕方について

(1) 生徒会執行部方針案を配る。ファイル等があればとじさせる。
(2) 方針案を読む。(1ページごとに質問や意見を考えてもらったほうがよい。質問や意見が出ないときは、班で話し合うなどしてください。)
(3) 質問があるかどうか聞く。言葉の意味がわからないときも質問し、質問に代議員や先生が答えられないときは、質問の用紙に書く。
(4) 修正案(議案書の内容を変えてほしいという意見)があるか話し合う。

①修正案があったら、なぜ変えたいのかという理由を聞き、どのように変えたいかを具体的に聞く。変更等がある場合は理由と代案を必ず明記すること。
②クラスのみならず、出された修正案についての意見を聞く。
③意見を聞いたあと、修正案について、クラスのみならず賛成反対かを聞く。
④クラスの過半数の賛成がある場合は、その修正案はクラスの意見となります。→修正案や質問がない場合も配布した用紙に「変更等なし」と記入して4月24日(月)の放課後までに先生まで提出して下さい。修正案は必ずどのように変えたいかを具体的に書くこと。理由も明記すること。書かれてない場合は受け付けないことがあります。
* 生徒会執行部方針案を読むときは、代議員が全部読んで構いませんし、クラスの人に順番に読んでもらっても構いません。代議員で話し合い、担任の先生と相談しておいてください。
* クラスの過半数の賛成がある場合は、そのクラスでの修正案(変えたいこと)として認められます。その後、生徒会執行部の会議や先生方の会議を経て、変更が可能であると判断された場合は各クラスに執行部方針案の変更点を提案します。その後、各クラスで討議を行って、過半数の賛成がある場合は、修正案の内容に変更をします。ただし、学校が不可能の判断した場合は修正案が反映されないことがあることも知っておいて下さい。

生徒会執行部方針の討議の
方法について

体育祭では、ルールや種目等について生徒自らが考える機会を設定した。安全面や合理性に基づいて、生徒が主体となり、自分たちの思いを大切にルールを考え、体育祭を実施することで自分たちの行動によってよりよい体育祭にできるという実感をもたせる工夫をした。体育祭当日は、自分たちで決めたルールを守ろうとする多くの生徒の姿が見られた。

自分たちで守るべきルールやきまりを考えたり、どのような行事にしたいかという目標を共有したりする機会を設定したことによって、全生徒が自分たちで作上げるものとして強く意識できるようになった。また、集団(社会)をよりよくするために何ができるかを主体的に考え、行動する力や意見の違いや相手の立場を理解する柔軟性を高め、他者と協働する力が高まったと考える。

しかし一部の学級からは、体育祭において観覧ルールを守れていなかったという総括も出ていた。合意形成の際、否定的な意見を建設的に役立てるような指導の工夫が必要であり、課題と捉えている。

学習活動②<地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力を高めるための実践>「地域の在り方」「クリーンアップ作戦」「新商品の開発」

社会科の「地域の在り方」の学習を起点に「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力を高めるための実践」として、「新商品の開発」や「クリーンアップ作戦」の指導計画を作成し、実践した。

生徒に地域とのつながりを実感させ、地域社会の一員であるという意識を高めることにより、地域の課題を自分事として捉えて、特別活動の「勤労生産・奉仕的行事」に社会参画意識を持って主体的に取り組めるよう、社会科の「地域の在り方」の学習において生徒が住んでいる交野市を題材として、交野市の特色や良い点について調べたり、交野市のさらなる活性化に向けて必要なこと等について話し合ったりさせた。

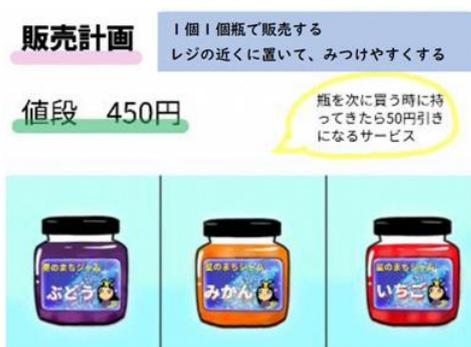
話し合う学習の中で、交野市のさらなる活性化のために、特産品を増やそうといった生徒の意見が出たことから、地域の企業と連携・協働した新商品の開発に取り組む実践につながった。

学習活動①で培った合意形成の観点や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導したことにより、商品開発に向けて学級のグループで話し合いをする場面や学級の代表案を決定する合意形成の場面において、学んだことを活かすことができていた。

このような、社会科・国語科・総合的な学習の時間と連携した教科等横断的な学習により、「自治的な力」「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて社会の形成に主体的に参画しようとする力」を育む実践に取り組んだ。



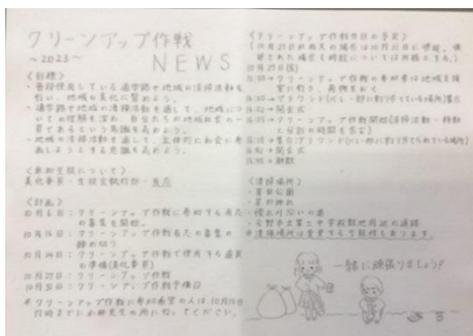
生徒が考えた商品を発表している様子



生徒が考えた商品『星のまちジャム』

- ・勤労生産・奉仕的行事である「クリーンアップ作戦」を実施した結果、生徒からは「自分たちが使用している通学路や地域がきれいになってよかった。」という学習感想があった。また、地域の方からは「中学生の活動のおかげで、施設や公園が美しくなった。ありがとう」などの意見をいただき、この取組みでは、生徒の自己有用感や自分たちが地域

社会の一員であるという意識を高めること、社会奉仕に関心を持ち、自主的に取り組もうとする態度を身に付けることにつなげることができたと考える。



クリーンアップ作戦ニュース



生徒が地域の清掃活動をしている様子

学習活動③<地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力を高めるための実践>「職場体験学習」

例年の職場体験学習では、生徒に地域との結びつきを実感させ、主体的に取り組む学習活動となっていなかったため、社会科の「地域の在り方」の学習と関連付け、交野市の特色や課題を把握する学習とつながるよう工夫した。また、教科等横断的な学習により、地域課題の解決を自分事として捉えられるようにし、社会参画意識を持って主体的に職場体験学習に取り組めるようにした。

事後学習では、「各事業所についてのポスター作成」「地域の活性化につながるチラシ作成」等を行い、体験学習で学んだことを活かし、地域課題を解決したいという社会参画意識の向上につなげた。

また、保護者と地域をつなげることが地域の活性化につながると考え、生徒が職場体験学習で学んだことをまとめ、発信する機会として、参観日に職場体験学習交流会を実施し、自分たちの学んだ地域の課題や体験して学んだこと等を発表した。

このような取り組みにより、生徒の振り返りでは、「地域とのつながりを大切にするのは大事であるということを知り、交流を深めていくことの大切さを知ることができた。」「自分自身が地域の一員だからこそ、困ったときは助けを求めたり、それぞれの経験や特性を活かし、役割を分かち合おうと思った。」等の感想があり、職場体験学習を通して、地域活性化の一助を担う経験をすることができ、生徒の社会参画意識を高めることができたと考える。



職場体験学習の様子



職場体験で学んだことを発表している様子

(交野市立旭小学校)

今日の職場体験学習で、様々なことを体験し、学ぶことができて、とても良い経験になりました。先生方の授業補助では丸付けや見回り、実際に体育で授業をしたりなど、たくさんできたので、とても楽しかったです。また、ずり、と立っていたり、注意をしっかりと取るのが少ししんどいこともありましたが、とても良い経験だと思えました。

授業内では、プレゼンテーションもさせていただき、小学校の児童達へ交野市の魅力や交野市立第三中学校の紹介をすることができて、とても楽しい嬉しかったです。少しかんではまりましたが、どのクラスの子達優しくしてくれて、先生方も優しく見守ってくれたり、とてもスムーズにプレゼンテーションができて、とても嬉しかったです。

体験中、児童達が「先生」と読んでくれて、とても幸せで嬉しかったです。

たくさん先生方へ児童のみなさんとお話になり、貴重な経験ができました。この経験も将来にいかせるようがんばります。次は、教育実習生として、また旭小学校へ行きたいと思っています。本当にありがとうございました。

職場体験学習の感想文



カタノのチカラ認定商品についてのチラシ